

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24401012

研究課題名(和文) アフリカ農民の流動性、生業の多様性、および「秩序」に関する研究

研究課題名(英文) Mobility, Livelihood Diversity and Social Order in Rural Africa

研究代表者

島田 周平 (Shimada, Shuhei)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：90170943

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,300,000円

研究成果の概要(和文)：1980年代の構造調整計画の実施、1990年代の政治の民主化と市場の自由化は、アフリカ農村社会に大きな変容をもたらした。農村・都市間のヒト・カネ・情報の流動性が増え、人々は村内外で非農業活動を活性化させてきた。この流動性増大と生業の多様化が農民の脆弱性や農村部の伝統的権威に変化をもたらしてきたことをザンビアの村落調査で明らかにした。また伝統的権威の変化と紛争との関係についても考察した。

研究成果の概要(英文)：Rural society in Africa has experienced rapid socio-economic changes since 1980s; implementation of SAP (Structural Adjustment Program), promotion of political democratization and market liberalization. These changes have accelerated diversification of livelihood of rural people and their movement helped by rapid dissemination of mobile phone, which have influenced on the people's vulnerability and power structure in rural society. I have studied on the process of vulnerability change of farmers and the change of power in a rural society in Zambia. Change of power in rural society has impact on social order.

I have examined relations between change in regional power structure and radicalization of conflicts since 2000. In Nigeria, I have studied new function of home-town association on social order of home town in the case of the Igbirra society. And in Zambia, I have examined reasons of establishment of the Ministry of Chief in 2012 and its implication.

研究分野：アフリカ地域研究

キーワード：アフリカ農民 流動性 多様性 秩序 脆弱性

1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまで、ナイジェリアとザンビアにおける農村調査の結果をもとに、1980年代の構造調整計画(SAP)の導入や1990年代の政治の民主化と市場の自由化といった政治経済的变化が、小規模農民の農業生産や日常生活に与えている影響について多角的に分析してきた(島田 2007a)。そして農民たちが、多様な出来事の継起的展開の中で彼らの脆弱性を増大させているのではないかと検討してきた(島田 2007b)。

それらの研究で、脆弱性が地域社会の「秩序」と関係をもっていることが明らかとなってきた。人々の脆弱性増大を一つの契機として、農民たちが村長や首長に代表される権威体制や既存の「秩序」に対して挑戦する事例がみられるようになってきたからである。

2000年以降ナイジェリアで激しくなってきたニジェールデルタの地域紛争と北東部のボコハラムの紛争では、伝統的権威はすでに調停能力を失い紛争の主たる担い手は若者武装集団となっている。彼らは、国内政治の周辺部で低開発地域に住む、資源へのアクセスを断たれた脆弱性の高い若者たちである。社会経済的变化と社会「秩序」や紛争との関係を脆弱性増大の視点から考える本研究は、これらの地域紛争の内的要因を探るためにも非常に重要な研究と考える。

2. 研究の目的

この研究の目的は大きく分けて2つある。1つは、近年のアフリカ農村社会における農民の流動性及び生業の多様性と、農民の脆弱性の変化との関係を解析することであり、いま1つはその脆弱性の変化、とりわけ農民の脆弱性増大が農村社会の「秩序」や権威の変化にどのような影響を与えているかを考察することである。

前者についてはすでに1980年代以降のナイジェリアと1990年代以降のザンビアで実施してきた農村調査の結果分析を中心に解

析を進め、後者についてはナイジェリアとザンビアで新たに現地調査を実施し、最近のアフリカにおける地域的「秩序」や地域紛争についても考察を進めることにした。

農民の流動性、生業の多様化、変化の中の「秩序」といった点はすでに農業研究やインフォーマル部門研究でさまざまな視点から注目されてきた。本研究では、脆弱性と「秩序」との関係を考察するにあたり、これらの研究成果も取り入れようと考えた。

農民の流動性に関しては、S.ベリーが、不安定な環境(政治経済的、自然的の両方を含む)のもとアフリカの農民たちは、資源へのアクセスを巡り絶え間なく交渉を行い制度や伝統をも流動的に変化させていることを指摘している。彼らは貯金を取り崩してでも(人的ネットワーク等の)社会的投資に資金を振り向け「財産保有形態」を流動的なものにしていく傾向があるというのである(Berry 1993)。

生業の多様化については、ブライセソンの脱農業化(deagrarianization)の指摘が示唆的である。彼女は、過去30年間アフリカの農村部で非農業生産活動の比重が増大し、生業の多様化が進んでいること、それが都市のフォーマル部門とインフォーマル部門、農村部門といった3部門間の区分を不明確なものし、それらが1つの「渾沌とした部門」に変容してきているのではないかと主張している(Bryceson 1996; 1999)。この指摘はリーチとスクーンが述べる、制度適用にみせるアフリカ人の柔軟性や、人々の組織再編・組み替えのうまさといった才覚(プリコラージュ性)に通じるものである(Mehta, Leach and Scoones; 2001)。

これらの生業の多様性と人々の流動性、さらに脆弱性増大が、「秩序」とどのような関係にあるのかという点に関してはミーガーの一連の研究が示唆に富む。彼女は、東部ナイジェリアの都市アバで、靴職人達が自分た

ちの商業活動を維持するために自発的に組織した自警団アカッシ・ボーイ (Bakassi Boys) の盛衰を分析し、それが合目的で内部規律を整えた組織であったことを明らかにした (Meagher; 2007)。この組織は後に彼等の名声を利用しようとする政治家に利用され暴力的集団に変容したのであるが、少なくとも初期には、明確な目的をもつ多民族構成の近代的な若者集団であったという。

SAP 後の都市フォーマル部門の縮小や民主化後の政治不安の中で、商人たちは自らの生活を守るために伝統的な家産制的権威に頼るのではなく合目的な新組織やネットワークを創生してきたことを示した。しかしこれらの合目的組織が政治家や伝統的権威に容易に利用され変質する弱さを持っていることも彼女の研究は明らかにしている。

これらの研究成果は、農民の流動性と生業の多様化が一部の農民たちの脆弱性増大をもたらしていることでは一致した認識を示している。しかし、伝統的権威に代わる新しい「秩序」の担い手の誕生については一部認めつつもそれが安定的担い手とはなっていないことを明らかにしている。これらの研究は、脆弱性が持つ多義性と脆弱性増大と「秩序」の関係の複雑性を示している。

3. 研究の方法

生業の多様化(非農業活動の増大)と農民の流動性の実態、さらにそれらと農民の脆弱性との関係については、これまで長期に現地調査を行ってきたザンビアのC村での調査をさらに継続し、その記録をもとに分析を試みた。農民の流動性と密接な関わりがある都市-農村関係の変化については、過去に農業生産と出稼ぎの関係について調査研究を行った中部ナイジェリア地域のエビラ人社会の同郷集団に焦点をあて、その社会の伝統的権威と「秩序」の問題について検討した。

また、本研究にとって重要な問題として急浮上してきたボコハラムの研究については、

日々展開する事件のクロノロジーを作成する一方専門家から聴き取り調査を行い、国際的テロと称される地域紛争の内的要因の検討を行った。最終年にはボコハラム研究の第一人者である研究者を日本に招聘し国際シンポジウムを開催した。

農村社会における「秩序」に関しては、ザンビア政府が新設した首長省の機能と問題点について検討することにした。

4. 研究成果

1年目と2年目は、ザンビアのC村とナイジェリアのエビラ人社会の調査を実施した。エビラ人社会の調査では主としてエビラ人同郷集団に対する聴き取りを行った。最終年には、社会変容と紛争に関する国際シンポジウムを開催し研究成果の公表を行った。

ザンビアのC村での調査では、過去20年間の村人たちの移動や生業の変化について聴き取りを行い、彼らが社会経済的变化の中でどのように農業生産を変化させ日常生活を営んできたのか、それが彼らの脆弱性にどのような影響を与えてきたのか分析した(文献(2)、(10)、(11))。新しい農業生産は、伝統的な相互扶助的賃借を減少させる一方で、新しい形の賃借を拡大させるなど、農民の脆弱性は一方的に増大するのではなく緩和される過程も内包していることを示した。

ナイジェリアでは首都アブジャでエビラ人同郷集団の関係者から聴き取り調査を行い、かつての出稼ぎ者集団が、故郷の政治や経済開発に積極的に関わる有力な同郷集団となってきた過程と現状について調べた(文献(6))。これらの集団は、故郷における紛争の調停役を果たすと同時にその紛争の当事者になる可能性もある。通信手段の発展によりヒト・情報・カネの流動性がかつてなく増大している現在、故郷の権威者たちも同郷集団の支持無くしては維持できない事態になってきており、「権威の流動性」といった新しい視点も必要であることが示唆された。

ナイジェリアでの調査期間中俄かに本研究にとって無視できない問題となってきたボコハラムの研究については、関連資料の整備を行い同事件の歴史的背景の分析を行った(文献(7)、学会発表(7)、放送(2))。また、ボコハラムの紛争の拡大とナイジェリアの総選挙との関係についての論文は現在執筆中である。

ザンビアで新政府により新設された首長省の設置(2011年:愛国党(PF:Patriot Front)のサタ大統領による)については、その政策的意図やその結果について聴き取り調査を行った。地方行政機構が弱体であるアフリカでは、地方分権化は伝統的権威の協力なくしては成功しないことが多い。その弱点を強化するために講じられた首長省の新設(文献(9))は、伝統的権威者たちの権力意識を覚醒させたようで様々な問題も引き起こしている。サタ大統領の急死をうけ本年1月25日に就任したラング新大統領がこの政策を引き継ぐかどうか不明であるが、この首長省新設は農村地域の土地所有に関する伝統的権威の強化を孕み、地方社会の「秩序」に大きな影響を及ぼすので、今後も注視が必要である。

最終年に、北部ナイジェリアの専門家であるラルフ(Raufu)博士とインフォーマル部門研究の専門家であるミーガー(Meagher)博士を招き東京と京都で公開の国際シンポジウムを開催した。このシンポジウムでラルフ博士は、北東部ナイジェリアでのボコハラムの運動が地域社会の脆弱性増大と密接な関係を持つことを指摘した。また同時に、その運動が国境を跨いで広い地域に連携を持って広がっていることを指摘した。これは、本研究で私が追求してきた地域社会内部での脆弱性問題と「秩序」との関係性が、もっと広範囲な地域的広がりの中で再認識されるべきことを示唆している。

一方ミーガー博士は、紛争の温床ともなる

インフォーマル部門で、紛争の緩和や調整が日常的に巧妙に行われていることを明らかにし、その上でその調整が効かない局面があることを分析の結果明らかにした。さらに彼女は、北部ナイジェリアで族生する新興宗教集団の中にも、厳しい社会変化の中で「秩序」と安寧を求め禁欲的に経済合理性を追求する商業組織があることを明らかにした。激しい変化を遂げる社会では、「秩序」の担い手が全く新しい組織原理により生成してきていることを示している。

また、アフリカの農村社会における資源をめぐる重層的関係や人々の流動性に関する研究で有名なジョンホブキンス大学のベリー(Berry)教授とニジェールデルタ地域の紛争研究の第一人者である米国社会科学研究評議会(SSRC)のオビ(Obi)博士との意見交換では、地域紛争やその解決に果たす伝統的権威の役割の低下は認められるものの、政治家や政府と連携して隠然たる力を示すことがあることが再認識された。

以上の諸成果は、論文発表、学会発表、さらには放送での解説等で公表してきた。

[引用参考論文]

島田周平 2007a 『アフリカ 可能性を生きる 農民』 京都大学学術出版.

島田周平 2007b 『現代アフリカ農村-変化を読む地域研究の試み-』 古今書院.

Berry, S. S. 1993. *No Condition is Permanent: The Social Dynamics of Agrarian Change in Sub-Saharan Africa*. Madison: The Univ. of Wisconsin Press.

Bryceson, D. F. 1996. Deagrarianization and rural employment in sub-Saharan Africa: A sectoral perspective, *World Development*, 24(1): 97-111.

Meagher, Kate 2007. Hijacking civil society: the inside story of the Bakassi Boys vigilante group of south-eastern

Nigeria, *Journal of Modern African Studies*, 45(1): 89-115.

Mehta, L., M. Leach and I. Scoones 2001.
Editorial: Environmental governance in
an uncertain world, *IDS Bulletin*,
32(4): 1-9.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 11 件)

- (1) Kodamaya, S., Shimada, S. and Hanzawa, K. (2015) Understanding the vulnerability of African farmers living with uncertainty: A study of a village in Central Province, Zambia 『季刊地理学』 査読有 66-4: 269-283. (ISSN 0916-7889)
- (2) Shimada, Shuhei (2015) Socio-economic impacts on social vulnerability: Studies of a Zambian village 『季刊地理学』 査読有 66-4: 231-238. (ISSN 0916-7889)
- (3) 島田周平 (2014) 「援助の評価について考える：遅れてくる効果の重要性」 『AFRICA』 18-23. (ISSN0288-0423)
- (4) 島田周平 (2014) 「ボコハラムの過激化の軌跡」 『アフリカレポート』 査読有 52, 51-56. (ISSN 0911-5552)
- (5) 島田周平 (2014) 「伝統的首長を国政の中でどのように位置づけるべきか？ザンビアの取り組み」 (科研 S 『アフリカの潜在力を活用した紛争解決と共生の実現に関する総合的地域研究』 (太田至代表) 2013 年度派遣報告).
http://www.africapotential.africa.kyoto-u.ac.jp/report/201401_shimada
- (6) 島田周平 (2013) 「地域紛争の調停に乗り出した同郷集団：エビラ社会の場合」 (科研 S 『アフリカの潜在力を活用した紛争解決と共生の実現に関する総合的

地域研究』 (太田至代表) 2012 年度派遣報告).

http://www.africapotential.africa.kyoto-u.ac.jp/report/201301_shimada

- (7) 島田周平 (2013) 「レジリエンスと突発的エピソード」 『地域開発学研究』 23-3, 1-5.
- (8) 島田周平 (2013) 「ナイジェリアにおける共生の中の暴力的紛争」 『東北学院大学社会福祉研究所研究叢書』 9号(「福祉社会論」) 東北学院大学 21-30.
- (9) 島田周平 (2012) 「新しい専門知の創出を」 『地域研究』 12-2, 82-83. (ISSN 0918-9432)
- (10) 島田周平 (2012) 「アフリカの農家世帯の脆弱性をどう捉えるか」 杉原薫他編 『歴史のなかの熱帯生存圏 - 温帯パラダイムを超えて - 』 京都大学学術出版会 査読有 415-437. (ISBN: 9784876982028)
- (11) 島田周平 (2012) 「2000 年代ナイジェリアの地域紛争過激化について考える」 『アジ研ワールド・トレンド』 査読有 205, 14-17. (ISSN 1341-3406)

[学会発表](計 7 件)

- (1) Shimada, Shuhei (2015.2.11) African studies in Japan - Retrospect for prospects -, Centre for Applied Social Science (CASS), University of Zimbabwe (collaboration with the Embassy of Japan in Zimbabwe) (招待講演)
- (2) 島田周平 (2014.5.24) 「ナイジェリアの地域紛争の「国際化」を考える」 第 51 回日本アフリカ学会学術大会 京都大学百周年時計台記念館
- (3) 島田周平 (2014.3.7) 「ザンビア農村社会の変化について考える」 第 8 回 北大

アフリカ研究会、北海道大学工学部 C101

(1) 島田周平 (2012.5.19) 「レジリエンスと突発的エピソード」 日本国際地域開発学会、日本大学生物資源科学部

(4) Shimada, Shuhei (2012.8.30)
Understanding the vulnerability of African farmers living with uncertainty 第 32 回 International Geographical Congress

(5) 島田周平 (2012.7.27) 「ナイジェリアの「地域紛争」」 アジア経済研究所 夏期公開講座

(6) 島田周平 (2012.7.21) 「ナイジェリアにおける共生の中の暴力的紛争」 東北学院大学社会福祉研究所 第 32 回 オープンカレッジ (招待講演)

(7) 島田周平 (2012.5.19) 「レジリエンスと突発的エピソード」 日本国際地域開発学会、日本大学生物資源科学部

〔図書〕(計 1 件)

(1) 島田周平 (2013) 「第三世界の開発」(人文地理学会編 『人文地理学事典』761p.)
丸善 494-497.

〔その他：放送解説〕(計 3 件)

(1) 島田周平 (2014.12.26) 「ここに注目！アフリカ」(高校講座 地理) NHK

(2) 島田周平 (2014.5.7) 「ボコハラム」(解説出演) NHK BS

(3) 島田周平 (2014.5.1) 「ナイジェリアの光と影」(解説出演) NHK BS

6. 研究組織

(1) 研究代表者

島田 周平 (SHIMADA, Shuhei)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：90170943